

開きはじめてた花は、止まらない。



「ナインハーフ」のスタッフが、愛はファッションじゃないことをファッションナブルにおしえます。

蘭の女

ミッキー・ロック/キャリー・オーティス/ジャクリン・ビセット

●監督・脚本: サルマン・キング ●製作総指揮: デビッド・サンダース ●製作: マーク・ダモン ●プロドロープ・デザイナー: ルチアーノ・ソブラニ ●撮影: ゲイル・タッカー・サル ●美術: カロス・コンティ ●音楽: シェフ・マコマック/サイモン・ゴールデンバーク ●テーマ曲(ダーク・シークレット): デビッド・ラッター&マルガレット・メネーセス(サントラ盤CD: ワナー・バイオニア) ●1990年/アメリカ映画 ●配給: 日本ヘラルド映画

WILD
ORCHID

「ナインハーフ」のスタッフが再び挑む愛と官能の世界!!

5年前、まったく新しいスタイルで愛と官能の世界を描き、世界中に一大センセーションを巻き起こした「ナインハーフ」の脚本家ザルマン・キングとそのスタッフが、「ナインハーフ」を超えるラブ・ストーリーを完成させた——それがこの「蘭の女」だ。

純情でどちらかといえば真面目でおかしい家庭に育ったエミリーが、大学を卒業してやり手の女実業家クラウドアの顧問弁護士に雇われたことから、彼女の人生が変わり始める。

クラウドアのビジネス旅行についてリオ・デ・ジャネイロに飛んだエミリーは、そこで得体の知れない実業家ウィラーに出会う。いつも豪華な衣装に身を包み、謎のほほ笑みを絶やさない男。

だが、二人の出会いはクラウドアによって仕組まれたものだった。金と地位、そして美貌を持つ彼女は、自由奔放に生きていように見えたが、実は恋人であるウィラーをいくら愛しても本当の姿をつかめないからだから、エミリーに危険な罠を仕掛けてきたのだ。

ウィラーと関係するうちに、自分の中の潜んでいた信じられないような“女”の一面があるのを知って愕然とするエミリー。それは灼熱の地ブラジルのように熱く、燃えたい欲望だった。そしてすでにウィラーを真陰に愛しはじめていた自分に気が付く。

しかし、以前として心を許さないウィラー。果たしてこの危険な愛に出口はあるのか……。

「ナインハーフ」で見事な脚本をものにし、女性たちの圧倒的な支持を得たザルマン・キングは、この作品を「ナインハーフ」のその後にくるべき愛の形として描いたという。

「ナインハーフ」では、男と女は最終的に別々の道を歩んでいったが、この「蘭の女」では、本当の愛を見つけるということをテーマとしているのだ。

“一人の男と出合ったことで徐々に変わっていく女”エミリーには、レブロンのコマーシャルや『ヴォーグ』『ハーパーズ・バザール』『コスモポリタン』などのカバーを飾るトップ・モデル、キャリア・オーティスが扮している。“今、世界で最も美しい女性”とたたわれている彼女は、この作品で映画初出演



蘭の女

ミッキー・ローク
 キャリー・オーティス/ジャクリン・ピセット
 監督・脚本:ザルマン・キング
 ワードロープ・デザイナー:ルチアーノ・ソブラーニ
 サントラ盤CD:ワーナー・バイオニア
 1990年/アメリカ映画/配給:日本ヘラルド映画



を果たし、文字通り体当りの演技で挑戦している。

エミリーの雇用主、美貌のやり手実業家クラウドアを演じるのは、「アメリカの夜」「ベスト・フレンズ」のジャクリン・ピセット。新しい役どころを探していたという彼女に白羽の矢が当たった。

そして、二人の女を狂わせる謎の男ウィラーには、セクシー・ガイ、ミッキー・ロークが当たる。ザルマン・キングとは、「ナインハーフ」以来の付き合いである彼は、母親に捨てられ、孤児院に育ち、女を信じることも愛することも出来ない孤独な男ウィラーに自分自身の生い立ちを重ね共感したという。「ナインハーフ」では、結局愛をつかむことが出来なかったミッキー・ロークだが、この「蘭の女」では、そこから一歩踏み込んだラスト・シーンを見せてくれる。

女を誘惑するサンバのリズム

舞台は厳寒のニューヨークから灼熱のブラジルへと変わり、色とりどりの花や鳥、そして開放された空気で、文字どおり人を変えてしまうエロティックなムードで充ち溢れている。

全篇を妖しい雰囲気染めていく音楽は、今世界中でヒットしているランバダを始め、ラテン・フレイバーの躍動的なリズム。

メイン・テーマを演奏するディヴィッド・ラッターは、ブラジルのアンダーグラウンド・シーンからメジャー・デビューした実力派。他にも危険な愛の世界を彩るアーティストとして、オフラ・ハザやNASAが名を挙げられており、ワールド・ミュージックの最先端を聴かせてくれる。

危険な愛を演出する華麗なソプラニ・ファクション

セクシーなイブニング・ドレスから男装シーンでのエレガントなメンズ・ファッションまで、数々の目を見張るばかりの衣装を担当しているのはイタリアを代表する世界的なデザイナー、ルチアーノ・ソブラーニ。

ソブラーニの服はシンプルかつ上品で知的好みの都会派に根強いファンを持ち、その人気は年々高まっている。現在44歳、ミラノ・ファッションの旗手として世界の注目を浴びて活躍している。

(上映時間:1時間52分)

5月26日(土)ロードショー!

●前売鑑賞券発売中/一般1300円・学生1100円・ペア(お2人で)2300円

有楽町・マリオン前
 ニュー東宝シネマ2 (571)
 1947

03